

人口減少社会と

地方都市の活力再生

55

える。

中でも、若里・権堂・

和田・駅前との4交番で管内犯罪の約5割を占めている。権堂町においては、若里に次いでワースト2位ではあるものの、面積比で比較した場合の認知件数で

は、ワースト1位となる。

さらに、権堂町では他地域に比べ凶悪犯罪（殺人・強盗・放火・強姦）や粗暴犯罪（暴行・障害）といった重大犯罪が多く（凶悪犯、全15件のうち3件、粗暴犯、全100件のうち24件）、浄化作戦は着々と進行しているものの、その途上を脱し切れていないのが実情である。

清水 秀幸氏（続く）

株式会社さくら都市総合研究所

主 席
研究員

清水 秀幸



図1は、昨年1年間に長野中央警察署管内の26交番・駐在所で認知された刑法犯罪の集計である。同署管内の刑法犯罪の認知件数は、2002年をピークに漸減しながら今日に至っているが、それでも1800件超を数

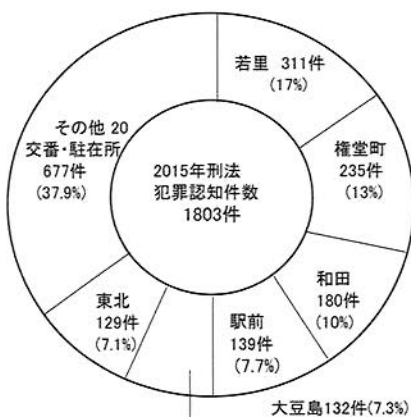


図1 長野中央署管内の刑法犯罪認知件数
(長野中央署調べ、2015年1月～12月)

同地区再開発構想の目標でもある「住みやすさを追求し、人を集め、街の魅力を高め、賑わいを創出するま

ち」の実現のためには、さらなる住民意識の向上と、官民協働による一層のクリーン作戦が不可欠と思われる。

清水 秀幸氏（しみず・ひでゆき）1952年長野市生まれ、76年明治大学政経学部政治学科卒。2013年6月株式会社守谷商会役員を退任し、同年7月株式会社さくら都市総合研究所を設立。長野市都市計画審議会専門委員ほか3委員、その他各地方自治体の審議員・部会員を兼任。現在同研究所社長